

セミナー1 埴田和史先生セミナー 理解度評価 平均4.3点 /5点満点	
No.	一番印象に残った内容
1	利用者さんの安全を第一に考えましたが、まずは自分、介護者の安全を第一に考えることで、利用者さんの安全にもつながるとのこと
2	
3	安全第一の質問に関して福祉関係の方の答えが自分ではなく利用者だと聞いて「納得」!!した自分が怖く感じました。先生の言われる職員の安全が利用者の安全に繋がる労働環境をもっと考えて行きたいと思いました。
4	介護は御利用者様の安全を最優先にという事でスタッフの事はこの次にしていた感がありましたが、本日の先生のお話によりスタッフの安全を考えることで御利用者様の安全にも繋がるという点が大変参考になりました。
5	腰痛予防対策、指針、予防策等内容を理解したまではいかないが詳しく知ることができた。
6	・ノーリフトケアの腰痛予防の考え方 ・法令の労働者を守る令
7	過去の基本介助。そして現在の見直し改善の必要性への理解の重要性を強く感じました。ノーリフティングケア導入にともなう基本理念の周知、そして、円滑に進めるよう、業務改善、環境整備の見直し等の重要性
8	安全第一、生産第二という言葉
9	腰痛などの原因が仕事によるものわかっている、技術が未熟である等自己責任や、このような仕事を選んだ「自己犠牲を美德とする文化」という考えが多く、なかなか解決策がすすんでいかなかった事を改めて感じました。ヨーロッパ等他国の思想や道具を取り入れ、従事者の安心、安全に繋げてほしいです。
10	法律の面からの話ははじめて聞いた。行政のフォローがないとなかなか難しいのではないかなと思う。
11	ノーリフトケアの取り組みを通じて判った事、変わった事
12	利用者の安全だけでなく自分自身の安全を第一に考えなくてはならない事
13	一番印象に残った事⇒産業医としてプールの使用を中止させてこと 学生時代に、御利用者の安心、安楽、安全ということを押さめられたことを思い出した。利用者の為に一番ということを考えていて、自分自身の安心、安楽、安全を見直すことは考えてこなかったなあと思いました。現場と産業医とのコミュニケーションが取れる体制ができるといいなと感じました。
14	労働衛生の管理に心がけます。
15	介護従事者の労働安全が確保される事で御利用者の安全・安心が担保される。
16	・組織で取り組むこと ・技術のみではなく目的の共有をしていく ・安全で快適な職場をつくる
17	ノーリフトケアが推進された経緯が分かりやすく理解しやすかったです。
18	
19	人材不足、賃金の不満は法人の努力では対応しきれないが、身体的負担に対しては法人の努力でどうにかなる
20	ノーリフトケアの導入をすすめていく中で、安全衛生・制度面について足りていなかったのが参考になりました。
21	再度認識が深くなった
22	看・介護職として「楽しい」「魅力的」な場であるという、ある意味必要なパラダイム支援であるという事
23	ノーリフトの取り組みを初めて職場スタッフへの意識づけをすることが一番難しい。今までの「ケアよりはまし」を念頭に継続できるよう取り組んでいきます。
24	リハビリ室にスタンディングテーブルはあるが、スタンディングマシンは初めて拝見しました。ケーブルと違っていろんな場所で使用可能で、排泄量も変わるという事で勉強になりました。
25	全国の事務所、又、看護師の腰痛保持の高さ、腰痛が付きものであり、ノーリフトのあり方を改めて考えさせられた。
26	わが国における腰痛予防対策
27	労働者の健康や安全が第一で、医療福祉労働者が安全、快適に働ける職場にすることで人材確保につながる。
28	”安全で快適な介護・看護をみんな願っている” 人の手がやさしいと抱え上げの思いこみが修正された。⇒体験して実感できる 教育課程が修正された⇒間違った情報を頭に入れない
29	福祉業界の腰痛発生率が高い事 腰痛予防対策について
30	安全第一とは、まずは労働者の安全と健康への確保であるということ
31	安全第一⇒従業員・利用者の安全を守るには従業員の安全が第一でなければ利用者の安全は守れない!!
32	安全性を介護側にも目を向けること。簡単なようで難しいことですが納得できる内容でした。
33	腰痛について 悪化して体を悪くする人も多いので第一に自分自身を大切にしないといけない
34	利用者を守ることはまず職員の安全を守ること。あらためて考えることができました。ありがとうございました。
35	高知県でのノーリフティングケア宣言のとおりくみ
36	ノーリフティングの歴史等、内容が幅広く難しかったです。
37	労働安全衛生マネジメントシステムの考え方の大切さを実感しました。 PDCAサイクルは必須だと思いました。 医療現場や理学療法士協会も取り組まれている事に心強く思いました。
38	ノーリフトケアの概念が導入された時期を伺い、知らなかったことが多かったと思いました。病院での勤務が長くリフトも使ったことがありませんでした。スライディングシートから導入して行きたいです。
39	法人トップサイドと一般職員レベル間で一貫したノーリフトの理解が必要である。ノーリフトケアへの間違った印象を持っている一般スタッフが多いためノーリフトを浸透させるには時間と一人ひとりの理解が必要である。
40	誰のための安全第一か。

41	労働安全衛生マネージメント手法 日本看護協会ガイドラインの改正
42	
43	ノーリフティングケアと本来の意味
44	職業病ともいえる介護職の腰痛に対する行政のガイドラインが13年にやっと策定されたということを驚きました。先生が余談としてお話された日露戦争の旅順攻略でさえ、事前には様々な手を打っていたわけで…つまりは現代の行政は日露戦争時の伊地知参謀もしくは太平洋戦争の指導者並みなんですネ
45	安全で快適な看護、介護をみんなが行うことを目的とする
46	
47	「安全第一」医療・福祉に関しては利用者様に当たる点 3年未満の人がケガが多く3年以内の離職者が多い
48	ひざつき介護の定義のお話
49	
50	安全第一⇒利用者ではなく(大事ではあるが)職員の安全確保
51	安全第一は医療・福祉では自分ではなく利用者という思いがあたりまえになっているが、本当は自分でなければいけない安全第一が自分(職員)の為に胸を張って言えるようにならないといけない
52	埜田氏が言われた労働安全について 安全第一 今介護職では利用者さんの安全第一で考えている事、やはり本人の安全第一が一番であるべき 本人の安全があることで利用者さんの安全をたもつことができると思いました
53	「安全第一＝従業員」であるという言葉はご利用者の安全を第一に考えている福祉業界においてとても印象深いものでした。 従業員の安全が確保できなければ利用者の安全も確保できない。 確かにその通りであると思います。
54	
55	
56	安全第一を考えた時私達は利用者さんをやはり一番に安全第一に考える支援・介助をしていることが普通・当たり前のことだと思っていました。双方が安全に安心でないとイケない。ノーリフティングケアとは福祉用具を使うこと、障害が重度の方に行うケア限定ではないことすべての作業におけるもの
57	介護、医療の現場では「安全第一」の対象が利用者になっているが、職員の安全・安心があって初めてそれが成り立つのだからまずは職員の環境を整える必要があるということ。
58	
59	久しぶりに…(コロナ渦で)…お会いでき、そしてお話を聞くことができ、改めて学ばせて頂きました。まだまだ労働基準法や安全衛生法においてあやふやなままで進んでいることを痛感しました。ノーリフティングを進めていくためには、今一度、しっかり、学ばなければと思いました。良い機会をありがとうございました。
60	労働衛生全般の知識について
61	・従業員の安全が確保できないと利用者の安全や快適な生活が維持できない。 ・職場の安全衛生に取り組むのは事業主の義務
62	安全第一という言葉は看護や介護の現場では自分自身のことではなく利用者のことととらえている。これは社会の常識から見ると異常なこと。利用者さんの安全の為に職員自身の安全と健康が第一であるべきだということ。
63	安全第一が利用者じゃなく従業員ということ 自己犠牲が美德とされている所
64	ノーリフティングケアはケアに与る職員のものではなくケアをうける側のことも考え、また、ケア技術だけではなくへも視線も必要ということ
65	学生から浸透させている(看護教育への導入)
66	「安全第一」という言葉があるが製造業等では「従業員、職員」の安全第一を目的としている。しかし、医療・福祉の現場では「利用者」の安全第一を考える傾向にある。しかし、まずは「職員の安全を第一」に考えていくことが大事であり、その事が結果、利用者さんの安全第一にもつながっていくのだという部分
67	ノーリフティングケアがすでに教育現場でおしえられていて、「実施している施設」としてプラスのみりよくになっているということ。「職場」として選ばれるみりよく作りも重要
68	今まで理解していたつもの事や言われてみれば「それ何？」と思う事に気づかされ再確認する事が出来た。 また、現場での実際の写真のビフォーアフター等もあり、聞いて、見て、分かりやすい内容だった。
69	・労働安全衛生法の内容 まずは自分の安全を第一とすること→施設職員にも伝えていきたいと思いました。 ・ノーリフトは用具のみ、技術のみではないということ 技術向上ばかりが先になってしまいがちですが、その他にも大切なことはたくさんあるという内容
70	ノーリフティングケアの重要性及び現在の環境に伴う対策を考え、利用者だけでなく職員をまもる環境をつくるのが大事なことを勉強させて頂きました
71	腰痛に対する考え方:意識を変える事が重要と感じました。 色々な視点、アイデアを持って取り組むことが大切と思いました。 「なぜできないのか」「どうしたらできるのか」と考えることが重要と感じました。
72	他の職業では安全第一と聞いて従業員の安全と考えるのに、介護職の立場では利用者様を一番に考えてしまうことにハッとしました。